

沿岸漁海況予報調査(昭和42年度)

山崎 廉三 西山 勇二

前年度に引き続き、沿岸漁海況調査を実施した。

調査方法

沿岸定点観測

試験船第2鳥取丸(19.86トン, D100PS乗組員4名)を使用して、図1に示す定点について表1のとおり調査した。

調査項目 気象(天候, 風向, 風力, 気温, 気圧, 雲量), 海象(透明度, 波浪, ウネリ)
0, 10, 20, 30, 50, 75, 100, 150, 200mの各層の水温, 塩素量, 魚群の状況等

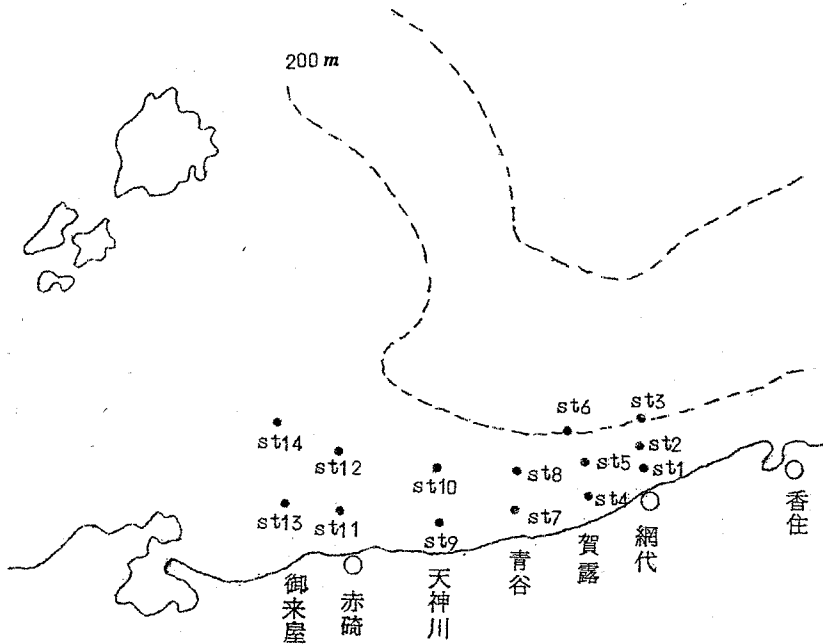


図1 沿岸定点観測位置図

定点位置

st 1	N35°36'	E134°17'
st 2	N35°40'	E "
st 3	N35°44'	E "
st 4	N35°35'	E134°10'
st 5	N35°39'	E "
st 6	N35°43'	E134°06'
st 7	N35°34'	E134°00'
st 8	N35°40'	E "
st 9	N35°34'	E135°52'
st10	N35°41'	E "
st11	N35°35'	E133°46'
st12	N35°45'	E "
st13	N35°36'	E133°29'
st14	N35°46'	E "

表1 沿岸定点観測実施状況

調査年月日	船名	測定数	欠測点数	調査員氏名	備考
42. 4. 12	第二鳥取丸	12	2	西山勇二	
5.9~11		14	0	"	
6.15~16		14	0	"	
7. 5~7		9	5	"	
8. 1~3		14	0	"	
9. 6~8		14	0	"	
10. 4		12	2	"	
11.1~7		14	0	"	
12. 19		8	6	"	
43. 1.		0	14	"	
2.	0	14	"		
3. 4	8	6	"		

調 査 結 果

調査の結果は、その都度必要事項を関係先に通報するとともに、県下の3漁協からの漁況ききとりとあわせ、毎旬、漁海況速報として表2のとおり関係先に通報したが、その概要は次のとおりである。

表2

速報発表月日	主なる配布先	対象魚種
4月 15日 22日		
5月 4日 12日 22日	水産課、普及員	
6月 5日 13日 21日	水産事務所、水産境分場	
7月 4日 12日 25日	農林省統計調査事務所	沿岸漁業対象 魚種
8月 4日 16日 26日	漁連、漁連境支所	
9月 5日 16日 25日	東、浦富、田後、網代港	
10月 5日 17日 25日	福部、賀露、酒津、浜村	
11月 6日 15日 24日	夏泊、青谷、泊、赤崎	
12月 4日 20日 26日	御来屋、淀江、弓北	
1月 9日 17日 24日	各漁協及び研究会	
2月 6日 17日 26日		
3月 5日 19日 28日		

海洋状況の推移

4月：水深50m層までは昨年並み、東部で12℃、中西部で13℃、水深100m層は東部で9～11℃、沖合より沿岸部が低目

5月：水深50m層は13～14℃で全般に1～2℃低目、水深100m層では東部が低目、西部が高目、沿岸暖流は強勢

6月：水深50m層は17～18℃で昨年より3℃高目、水深100m層では東部が1～2℃高目、中西部では低目

7月：水深50m層までは温度差がなく、20～21℃で昨年並

8月：水深50m層は21～22℃で高目、水深150～200m層は1～3℃低目、東部で

は冷水域が接岸

9月：水深50m層は22～26℃で1～2℃高目、水深100m層では東中部は低目で16℃台

10月：小深50m層は19～20℃で昨年より若干高目、小深100m以深は低目、兵庫県沖に暖水域形式

11月：水深50m層までは水温差がなく19～20℃、水深100m層は16～17℃台で若干低目

12月：水深100m層までは水温差がなく15℃

1月：荒天のため欠測

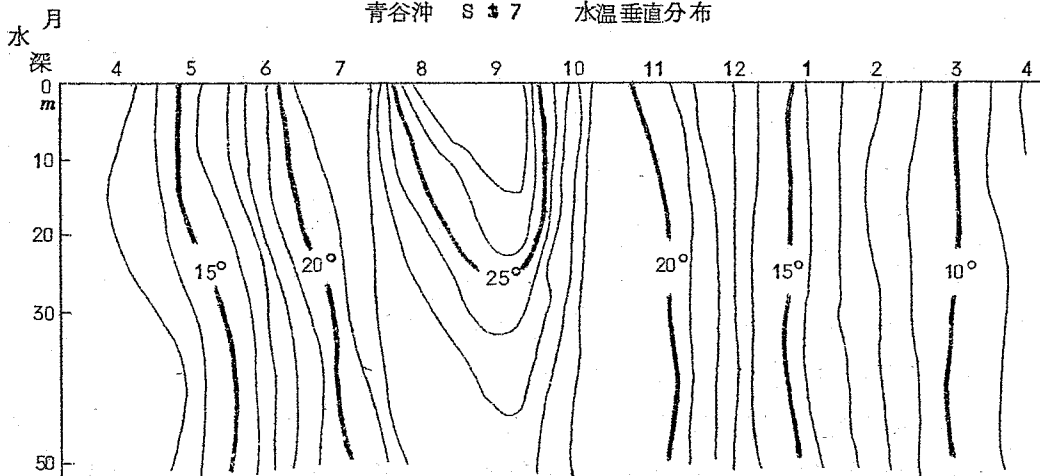
2月：荒天のため欠測

3月：水深100m層までは水温差がなく8～11℃

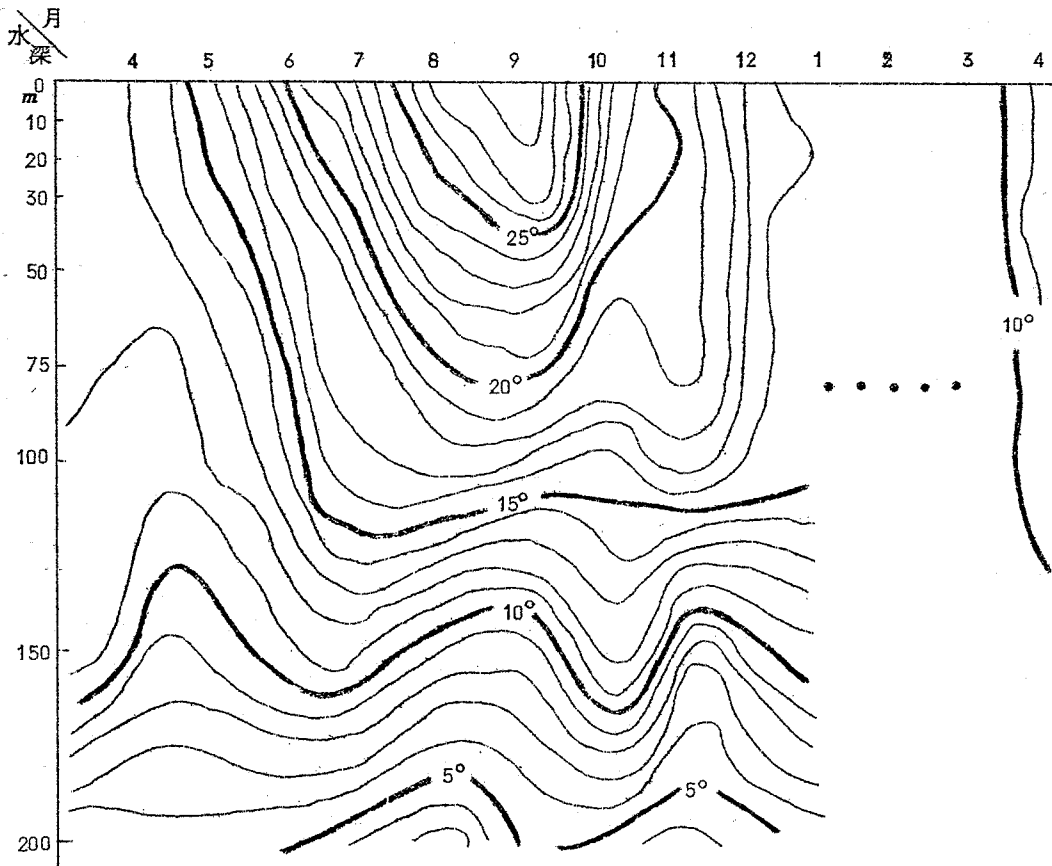
海況の特徴

4月、5月は昨年と比べ水温が低目に経過したが、6月以降は逆に中層以浅は高目に推移した。網代沖 S#3 の垂直分布を見ると昨年5月から6月にかけて、水深40mまで湧昇した15℃等温線は顕著な躍層を形成し、好漁況をもたらしたが、本年では昨年のような顕著な湧昇域は見られず、15℃の等温線は水深120m線に6月から12月まで安定形成された。このような現象は39年以降の調査では見られず本年の特異現象としてあげることができるが、海況としては変化に乏しく単調であり漁況に及ぼす影響としては、一部の魚種で短期的に好況も見られたが、一般的に漁況は低調に推移する要因になったと考えられる。

図2 昭和42年4月～昭和43年3月におけるST7及びST3の青谷沖 S#7 水温垂直分布



(図3) 網代沖 St3 水温垂直分布



漁況の推移

本年度から沿岸漁海速報の精度向上を図るため毎月毎にとりまとめた。

4月：東部ではハマチが好漁，中・西部では低調，スルメイカは前年よりも低調であったが，下旬頃より漁獲が見られた。タイ，メバルは西部で主として底刺網で漁獲された。

5月：東部ではスルメイカ中心の漁で前年を大きく上廻った。漁場は網代沖NNW20～30海里附近に形成され，魚体は大型の域熟群であった。ケンサキイカ漁は中旬から始ったが，西部を除き中・東部は昨年より少なかった。この原因として中部ではキス漕刺網が活潑に行なわれたので，ケンサキイカの出漁が減少したためと考えられる。ハマチは西部地区で中旬から本格的な操業が行なわれ，前年を大きく上廻る漁があった。

トビウオは中旬以降漁獲され始めたが，全般に低調で前年に比べ $\frac{1}{2}$ 以下の不漁であった。この外，特徴としては，中部地区でキス漕刺網の成果が著しかったこと，西部でカワハギがかなり漁獲されたことなどがある。この要因は，本県沖合にある冷水域の影響で沿岸暖

流が沖合から圧迫されたことに起因したのではないと思われる。

6月：東部地区のスルメイカ漁は船間差が大きく、前年よりも漁が少なかった。沖合は未熟群が主体であった。ケンサキイカ漁は次第に好漁となり全域にわたり前年を大きく上廻る漁況となった。トビウオ漁は最盛期に入ったにもかかわらず前年の $\frac{1}{2}$ 以下の漁獲に推移した。ハマチは中旬に西部地区で漁があったが期間は短かった。

7月：東部沖合のスルメイカ漁は量的に少なかったが、底びき船による大和堆での漁獲があり総体的には昨年を下廻った。ケンサキイカは、県下全域とも好調で前年を大きく上廻る漁獲が見られた。

ケンサキイカは、県下全域とも好調で前年を大きく上廻る漁獲が見られた。

トビウオ漁は、各地区とも不漁で前年の $\frac{1}{2}$ 以下の漁獲量で、下旬には中・西部ではほとんど漁を打切った。中部地区はキス漕刺網で順調な漁獲が続いた。シイラ濱は上旬から漁獲され始めたが、各地区とも前年を上廻る漁獲が見られた。

8月：東部のスルメイカ漁は上旬を除き前年以下の漁獲量、シイラ、ケンサキイカ、カワハギ漁はかなり順調な漁獲が続き前年を上廻った。ソデイカ漁は、これまでまとまった量は漁獲されていなかったが、東部地区で漁法の導入により下旬から漁獲され始めた。

9月：スルメイカ漁は低調となったが、シイラ、ケンサキイカ、カワハギ漁は前年を上廻る漁が続いた。

ソデイカ、ヨコワは東部地区で釣獲された。

10月：東部のスルメイカ漁は前年に比べ低調であったが、ソデイカの漁獲量は急増した。

ケンサキ、シイラ漁は全域とも前年を上廻る漁獲があった。ハマチは中・西部で前年以上の漁があった。なお、中部地区でも中旬以降ソデイカ漁が始まり漁獲されはじめた。

11月：スルメイカの来遊が見られず低調に推移した。ケンサキイカ漁も前年を上廻ってはいるものの暫減しており、漁期の終りも近づいた。ソデイカは東部地区で順調な漁がつづいた。ハマチは中・西部地区で好漁を持続したが、特に中部で上旬好漁であった。

12月：全般に荒天に災いされ出漁日数がきわめて少なく、従って漁獲もきわめて低調に推移した。東部ではソデイカ、中・西部ではハマチ主体の漁であった。

1月：東部地区ではほとんど出漁できず、中・西部地区で底刺によるタイ、ハマチ、メバルが少量漁獲された程度

2月：全域ともほとんど出漁できず、わずかに中・西部地区で底刺網による漁のみ。従って見るべき漁はなし

3月：東部地区では出漁日数も少なく見るべき漁はなかった。中・西部地区では底刺網による

ハマチ漁が活潑となり、かなりの漁獲があった。

漁況の特徴

4月～5月：スルメイカは4月下旬頃から始まり5月に入ると前年を上廻る漁獲が見られた。漁場は網代沖NNW20～30海里附近に形成され、魚体は大型の成熟群であった。測定した結果によると、♀とも外套長200mm以上のものが主体であった。ケンサキイカは前年よりも不漁、西部海域では中・東部よりも好漁で推移、ハマチも局部的に好漁が見られた。トビウオは全般に不漁

6月～7月：東部海域のスルメイカ漁は全般にむらが多く、船間差が大きかった。大和堆での沖合スルメイカ漁は出漁船が昨年を上廻ってきたため、漁獲は増加した。

中、西部海域で局部的にハマチが漁獲されたが、漁期は短かかった。ケンサキイカは県下全域とも好調となり、前年の漁獲を上廻る漁が見られた。トビウオ漁は全域とも不漁で前年の $\frac{1}{2}$ 以下の漁獲量で終漁した。

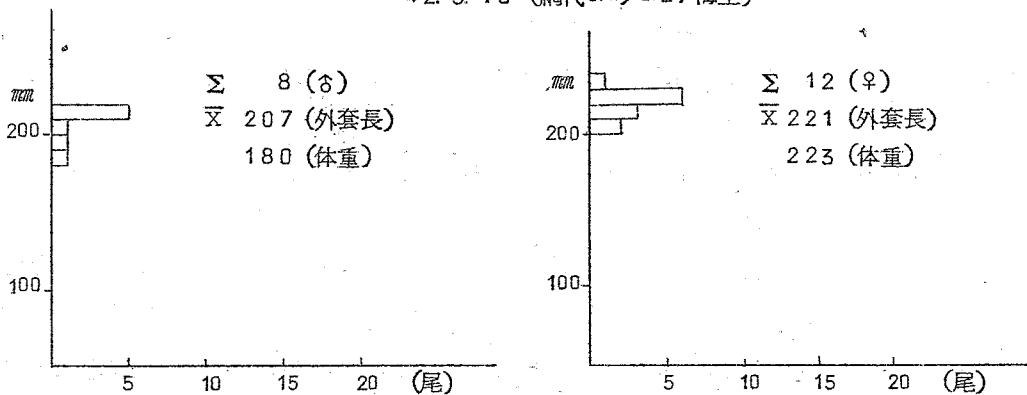
8月～9月：シイラ、ケンサキイカ、カワハギ漁は前年を上廻る漁が見られた。従来、あまり釣獲されていなかったソデイカ漁が導入され釣獲され始めた。

10月～11月：ケンサキイカ、シイラ漁は好調を継続した。スルメイカ漁は前年を下廻る漁であったが、東部～中部海域のソデイカ漁は極めて好漁でかなりの漁獲が見られた。ハマチは中・西部海域でかなり好漁が続いた。

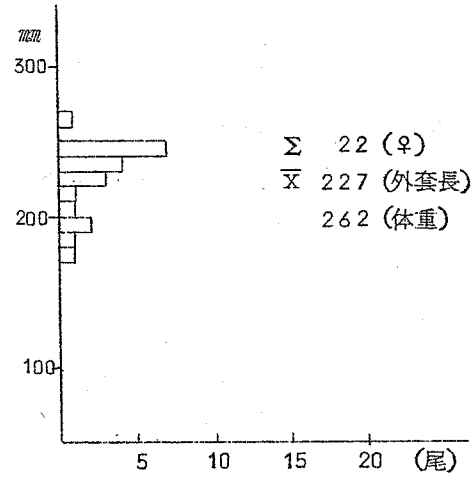
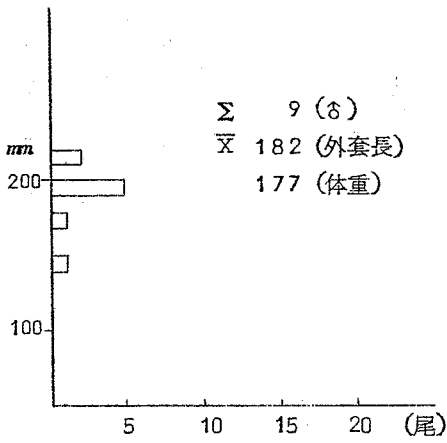
12月：全般に荒天に支配され出漁日数が少なかったが、冬イカ漁は全くの不漁、東部ではソデイカ、中・西部ではハマチ主体の操業が行われた。

スルメイカ魚体測定

42.5.13 (網代NW/N27海里)



42. 5. 16



42. 5. 17

